

復興全力父さんすごい

巨理 作業員家族が現場見学

東日本大震災の災害復旧事業に従事する様子を作業員の家族に公開する催しが5日、巨理町荒浜の阿武隈川の堤防工事現場で行われた。

国土交通省と県建設業協会が初めて企画。堤防工事を受注する日建工業(仙台市青葉区)の佐藤敏宏さん(35)、本田直樹さん(35)の2家族6人が現場を訪れた。

同社は来年3月末までの工期で、さかのぼる津波を防ぐために堤防を以前より約1メートル高い海拔7

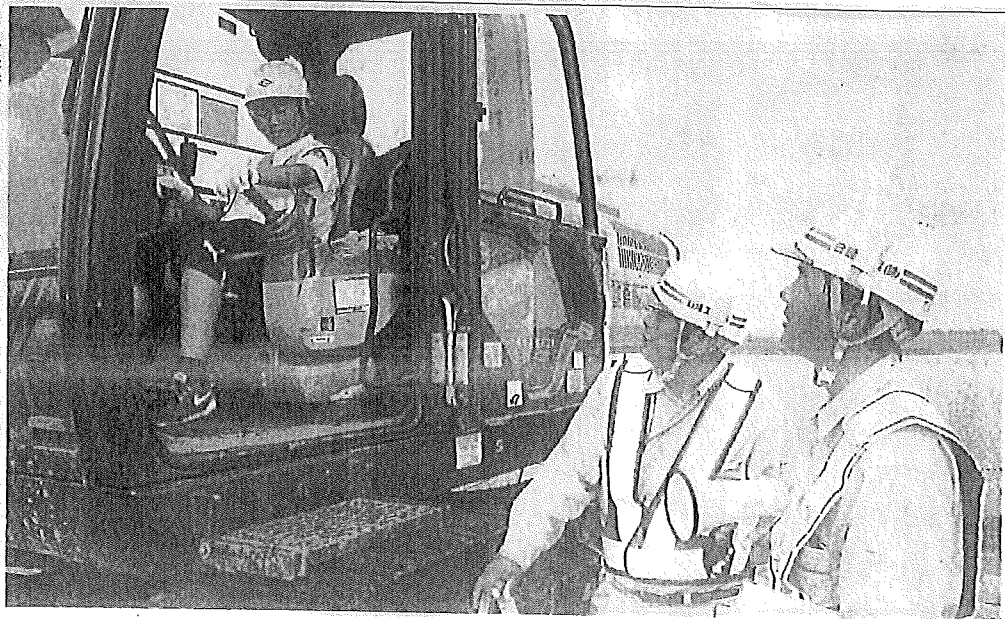
・2層にかき上げる工事に取り組んでいる。

佐藤さんらは工事概要や現場での一日の仕事の流れなどを家族に説明。子どもたちに、地盤を固めるタイヤローラーなどの重機やダンプカーに体験搭乗させた。興味深そうに運転台のレバーや機器を操作する息子や娘の姿に目を細めた。

父親の働く現場を初めて訪問したという佐藤さんの長男翔馬君(12)は「仙台市川前小6年」は「復

興のために頑張っているお父さんはすごいと思う」とあらためて尊敬した様子。現場代理人を務める佐藤さんは「子どもが建設業に興味を持ってくれたらうれしい」と期待した。

8日は、石巻市の三陸道矢本石巻道路4車線化事業の現場を家族に公開する。



佐藤さん(右)らが見守る中、バックホーの運転席に乗ってレバーを操作する翔馬君(左)

建設新聞

東北整備局、宮建協

建設の仕事

「かつこいい」

見学会「お父さんの仕事を見てみよう」

東北地方整備局仙台河川国道事務所と宮城県建設業協会(佐藤博俊会長)は5日、阿武隈川下流荒浜8工区堤防災害復旧工事(宮城県亘理町)の現場で「お父さんの仕事を見てみよう」と題した見学会を開いた。復旧に取り組む父親の姿を子どもに見てもらい、土木の役割、建設業で働くことへの理解促進につなげる狙い。東北整備局としては初の試みだ。今回は、監理

お父さんとダンプに同乗



体で効果を発揮するよう、海拔7・2メートルの高さの河川堤防を約500メートルにわたり整備するもの。現在は日建工業の施工で壊れた堤防の撤去を終え、新たな堤防の土台となる盛土を進めている段階。2015年度の完了を目指している。

お父さんが働く現場を見学したのは、監理技術者である本田さんの息子・優翔くん(7歳)と、現場代理人を務める佐藤さんの子どもたち・翔馬くん(12歳)、有紗さん(10歳)、優衣さん(8歳)の合わせて4人。お父さんが担当する仕事の流れの説明を受けた後、重機(バックホウ)や10トダンプに搭乗する体験をした。

見学会の舞台となった現場は、東日本大震災で大きな被害を受けた阿武隈川河口部で、地域の復興計画との整合性を確保しながら海岸堤防と一

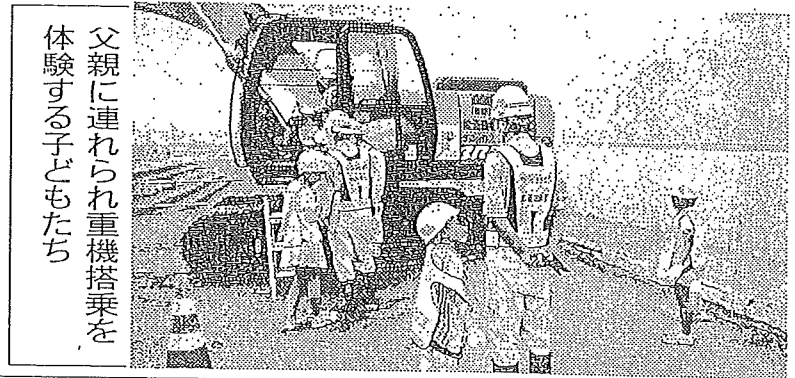
た」などと話した。また、建設の仕事については「とても大変そうだった」との印象だが、お父さんが現場で働く姿を見て「夢はプロ野球選手だけど、なれなかつたら建設の仕事をしたい」と感じたという。

働く姿を子どもたちに初めて見せたという本田さんと佐藤さんは、そろって「作業員の方々と一緒に協力して、現場の問題を解決しながら工事を完成させた時の充実感」は格別と建設業で働く魅力を語り、「今回の現場見学会を体験して、本人が興味を持てば建設業の仕事に就いてほしい」と子どもたちの将来に思いをはせた。

8日には、復興道路である三陸沿岸道路矢本石巻道路4車線化事業(施工・丸本組)の現場でも、同様の見学会を開く予定だ。

お父さんの仕事はすごい!

宮城建協、東北整備局「仕事場見学会」 社員の家族が現場訪問



父親に連れられ重機搭乗を体験する子どもたち

宮城県建設業協会と東北地方整備局仙台河川国道事務所は5日、建設会社社員の家族による「お父さんの仕事場」見学会を開催した。対象となったのは、宮城県巨理町の阿武隈川河口部堤防復旧事業として、日建工業

(仙台市)が堤防復旧と強化事業を施工する現場。同社の佐藤敏宏現場代理人と、本田直樹監理技術者の家族が工事の様子を見学した。

「復旧・復興事業でがんばっているお父さんの仕事を理解していただく

とともに、土木の役割や大切さを子供たちに知ってもらいたい」(熱海裕章 仙台河川国道事務所計画課長)。九州地方整備局が開いている「おとうさんの仕事現場見学会・おやじの日」にならったという。宮城建協でも同様の企画を立ち上げていたことが共催の実現となった。

佐藤現場代理人の子どもは翔馬君、有紗ちゃん、優衣ちゃん。本田監理技術者の子どもは優翔君。工事の内容を聞きながら重機の搭乗体験に目を輝かせた。翔馬君は「お父さん、ときどき怖いけれどすごい仕事をしているのを初めて知った」と感想を語った。

佐藤現場代理人は「将来、土木の世界に興味を持って、進路の一つに考えてくれたらうれしいです」と述べた。本田監理技術者も「仕事の話ができるのはまだまだ先のこと。日曜日にドライブに連れて行く方が喜んでくれるかな」と笑顔を見せた。

子どもたちに付き添ったお母さんたちに聞いてみると、それぞれのお父さんは「職場の話はしなけれど、日曜日には子どもたちと遊んでくれる」と評価する。「昼間のパパ」とはずっと違ってお父さんたちだぞうだ。

見学会は8日にも、三陸沿岸道路矢本石巻道路4車線化事業現場で行われる。宮城建協の伊藤博英専務理事は「施工者だけでなく、発注者のご家族にも見学の機会を提供していく。冬休みの時期にも見学会を設けたい」と展望を語った。



お父さんに見守られながら
バックホウに搭乗

仙台河川・宮建協

お父さんの
お仕事
見てみよう♪

東北地方整備局仙台河川
国道事務所(牧哲史所長)
と宮城県建設
業協会(佐藤
博俊会長)は

家族招き見学会

5日、復旧・復興事業でが
んばるお父さんの姿を子ど
もたちに見てもらおうと初
の試みとなる見学会を開い
た。日建工業(仙台市青葉
区)が担当する阿武隈川の
堤防の復旧現場に同社の社
員2家族が訪れ、お父さん
の日々の仕事や土木の役割
大切さを体験した。
見学したのは、同社が施

工する巨理郡巨理町荒浜地
内の「阿武隈川下流荒浜8
工区堤防災害復旧工事」。東
日本大震災の地震・津波に
よって甚大な被害を受けた
河川堤防の復旧現場だ。地
域の復興計画と整合を図り
ながら、海岸堤防と一体と
なって効果を発揮する堤防
へと造り変えている。施工
延長は約580m。工事で

は、海拔7・2mの盛土工
約8000個のコンクリー
トブロック工、植生工など
を施す。工期は27年3月31
日まで。
参加したのは、現場を担
当する佐藤敏宏現場代理人
の小学生の子ども3人と妻、
本田直樹監理技術者の小学
生の子どもと妻の2家族合
わせて6人。現場では、は

じめに事業概要やお父さん
の1日の仕事内容について
説明を受けた。その後、現
場で使うタイヤローラーや
バックホウ、ダンプトラッ
クなどの重機に搭乗体験。
子どもたちは、お父さんの
手を借りて、順番に大きな
車両に乗り込んだ。

家族を現場に招いた佐藤
現場代理人は、「実際の現
場を見て興味を抱き、将来
建設業を目指してくれたら
嬉しい」と期待を込めた。
初めてお父さんが働く現場
を訪れた子どもたちは、「い
つも家にいるお父さんの姿
とは違って、格好よかつ
た」などと目を輝かせた。
「お父さんの仕事を見て
みよう」見学会は、8日に
も丸本組(石巻市)が担当
する三陸沿岸道路矢本石巻
道路4車線化事業の現場で
も実施する予定。

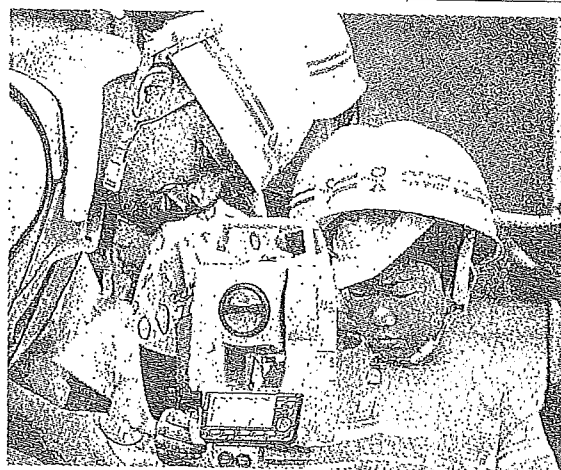
建設新聞

東北整備局仙台、宮建協

建設の仕事って「すごい」

見学会「お父さんの仕事を見よう」

東北地方整備局仙台河川国道事務所と宮城県建設業協会(佐藤博俊会長)は8日、建設現場で働く父親たちの姿を子どもたちに披露する見学会「お父さんの仕事を見よう」を、三陸沿岸道路矢本石巻道路4車



線化事業の現場で開いた。参加した子どもたちは試乗した建設機械の迫力に目を見張り、現場で働くお父さんの姿を誇らしげに見つめていた。

見学会は、国土交通省が復興のリーディングプロジェクトと位置付ける三陸沿岸道路の矢本石巻道路4車線化事業のうち、丸本

組(宮城県石巻市)が施工する上稲荷地区道路改良が主な舞台となった。この事業は、高規格幹線道路ネットワークを形成する自動車専用道路として、現在の2車線を4車線化するもの。交通混雑の緩和や早期復興への

寄与が期待される。見学会に参加したのは、工事の建設監督官を務める仙台河川国道事務所の千葉満也氏、工事責任者の萩原秀一氏、隣接工区の工事責任者である阿部寿氏、現場技術者の芳賀和俊氏、積算・企画担当の佐藤文紀氏の子どもたち総勢7人。

日本に1台というラジコ

ンローラーの操作や、最高で高さ20分に達する高所作業車への試乗、ラジコンヘリのデモ飛行などで建設の仕事に触れた後、測量機器を使って遠くの的に描かれたキヤラクターや文字を当てるクイズに回答。最後は、かき氷のサービスを受けて、大満足の様子だった。

お父さんの仕事を初めて見た子どもたちは、「みんなが使う道路を造っていてすごい」「帰りは遅くて大変そうだけど、わたしたちの生活にとっても役立っていると思う」などと話した。

千葉監督官は今回の見学会について、「これまで仕事しているところを見せたことがなかったのですが、とてもいい機会となった」と評価。建設の仕事に対しては「生活していく上で公共インフラは不可欠であり、その整

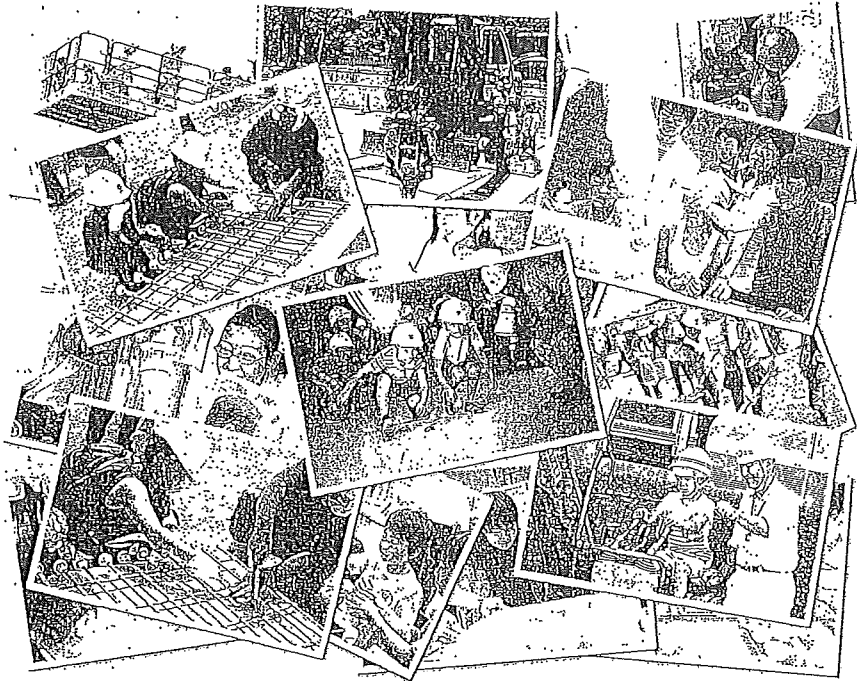
備や維持管理を担う役割は重要。建設の仕事により多くの人が目を向けてほしい」と訴えた。

また、工事責任者の萩原さんは自らの役割について「復興道路の三陸道を一日も早く全線開通させ、東北の復興に役立ちたい」と力を込めた。

仙台河川国道事務所計画課の熱海裕章課長は、「参加した子どもたちはもちろん、父親たちも喜んでくれた」と、来年度以降も見学会を継続する方針を示した。

建設通信新聞

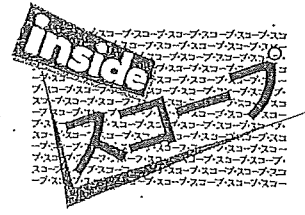
夏休み子ども向けイベント盛り



子どもたちにとって夏休みイベントが忘れられない思い出の1ページになることが建設業界共通の願いだ

全国各地で建設業PR

夏休みも中盤にさしかかる中、国土交通省や建設業団体、建設会社による子ども向けのイベントが全国各地で開かれている。現場見学や講座など「夏休みの課題」に使えるようなイベントとして、恒例行事になっているものも多く、担い手確保が建設業の最大の課題となっている中で、建設業への理解を深める活動として広がり続けられ期待されている。



将来の職業として建設業を

国土交通省の建設産業活性化会議が6月にまとめた中間とりまとめでは、現場見学や学校と連携した広報活動によって建設業への理解や関心を高める必要性が提示された。建設業団体や企業による現場見学は、定期的に各地で開かれており、特にこの時期は夏休み「宿題」として参加でき、インフラ巡りツアー、水源地や港の見学など社会資本に親しむためのイベントも数多く開催されている。

技術者と一緒

土木学会が、100周年記念事業の一環として開いた。全国の建設業協会も子ども向けイベントには力を入れており、特に目を引くのは、交省九州地方整備局と九州建設業協会、日本建設業連合会が共同で開催する「おやじの日」だ。昨年に引き続き、2回目の開催となるが、特徴的な点は施工会社や協力会社、発注者が協力し、その会社・発注者の社員として実際に働く「お父さん」を家族と一緒に現場で働く作業員が自分の息子を連れて来ようと思わない業界では珍しい。

親の働く姿を見る

全国的な建設業協会も子ども向けイベントには力を入れており、特に目を引くのは、交省九州地方整備局と九州建設業協会、日本建設業連合会が共同で開催する「おやじの日」だ。昨年に引き続き、2回目の開催となるが、特徴的な点は施工会社や協力会社、発注者が協力し、その会社・発注者の社員として実際に働く「お父さん」を家族と一緒に現場で働く作業員が自分の息子を連れて来ようと思わない業界では珍しい。

継続性に期待

これら子ども向けイベントは、継続性の重要性が指摘されており、参加者が就業して子どもが生まれた時にまた参加できる取り組みにする意識が求められている。また、「夏休みの課題」だけでなく、「職業としての建設業」を意識できる工夫も期待される。

6年生の近藤藤輝くんは、天空都市と地下都市をエレベーターで結ぶ未来都市を夢見ている。技術検討会では、頭の中にある提案者のイメージを技術者が丁寧に聞き取り、どうしたら実現できるか、頭を悩ませていた。これまで土木学会が一般から提案を募集したことはなく、建設業に関心を持つきっかけづくりとして、新たな未来につながる取り組みと言えらる。7月22日には建設業団体だけでなく、建設会社でも同様の取り組みが開かれている。

- 7月22日 建設技術研究所「夏休み親子職探検隊」香川県高松市川町で開催
- 7月25日 国土交通省北陸地方整備局「現場見学」
- 7月23日 福島県建設「高校生向け現場見学」
- 7月24日 日連連「科学技術館サイエンス友の会会員小学生と親が科学技術館を訪問」
- 7月26日 術館建設館と環7地下調査池を見学
- 7月30日 日連連四国支部「親子現場見学」
- 7月31日 群馬建設「県立初級園をイメージキャラクターくんくんくんが訪問」
- 8月1日 兵庫建設と青年部会「建設おやじの日」
- 8月2日 土木学会「未来のT&Iコン」
- 8月2日 地盤工学会関東支部「小学生向け科学体験教室を開催」
- 7月28日 福島建設「親子建設現場見学会」
- 7月30日 竹中工務店「従業員の子どもの対象に現場見学会」
- 7月31日 スクエア「住宅展示場で、親子で学ぶづくり発表会を開催」
- 8月1日 土木学会北海道支部「親子で土木の現場めぐりバスツアー」
- 8月2日 地盤工学会関東支部「小学生向け科学体験教室を開催」
- 8月3日 清水建設「中央地域家庭教師推進協議会主催の学習会で親子木工教室」
- 8月3日 埼玉県入間市「市内の女子小学生向けの講座開催」
- 8月3日 九州建設業協会、九州建設業協会、日連連建設会社社員発注者協力会社の家族が実際の仕事場で父親が働く姿を見学する「おやじの日」を開催
- 8月3日 福岡県「名塚道路八幡トンネル工事」に地元小学生を招く
- 8月4日 大阪建設「三田技能建設研修センター実習場で高校生向け夏休み体験セミナー」
- 8月5日 宮城建設、東北地方整備局仙台河川国道事務所「建設会社社員家族向けの現場見学会」
- 8月5日 日連連「科学技術館サイエンス友の会会員小学生と親が科学技術館建設館と京葉銀行干渉みなと新築工事現場を見学」
- 8月6、7日 国土交通省「子ども向け現場見学ツアー」建設業の仕事体験コーナー設置